

# 市民の手で樹を育て、ふるさとの杜再生へ

仙台ふるさとの杜再生プロジェクトは、東日本大震災の津波によって失われた仙台の海辺の森を、市民の手で再生することを目指し2014年にスタートしました。2021年までに約3,600人が参加し、約2万7,500本もの苗木を植樹。現在は、樹木がすくすくと成長できるよう、除草や新たな苗木づくりなどの「育樹」を進めています。

暑さが落ち着き始めた9月20日(土)、震災後に整備され、令和4年度から令和6年度にかけ、植樹会を開催し市民とともに約3,500本の苗木を植えた高砂中央公園で、育樹会が行われました。参加したのは未就学児童から高

齢者までの50人余りの皆さん。公園内にある「見晴らしの丘」周辺の除草のため、樹木の周りを覆う一面の雑草を丁寧に刈り取りました。参加した市民からは「近隣住民として、地域の環境美化に協力したい」「育樹会は子どもたちがみどりに触れ合うことができ、ボランティア体験や防災教育の一環としてもよい機会なので、今後も参加したい」などの声が聞かれました。

あしたのみどりキャンペーンでは、植樹・花壇づくりなどの支援活動が続けるとともに、仙台市東部地域のみどりの再生と、豊かな自然を未来につなぐ活動を応援していきます。



育樹会には、家族連れや高齢のご夫婦、近隣の企業関係者など、多くの市民が集まりました



「子どもたちに経験の機会を」と、親子での参加も目立ちました



多くの参加者の協力により、除草作業は順調に進みました



仙台市が東日本大震災後に新設した高砂中央公園。大型遊具がそろう遊びの広場、運動広場、テイクアップサイトや見晴らしの丘などがあり、幅広い年代に親しまれています(写真は、見晴らしの丘付近の遊歩道と植栽エリア)

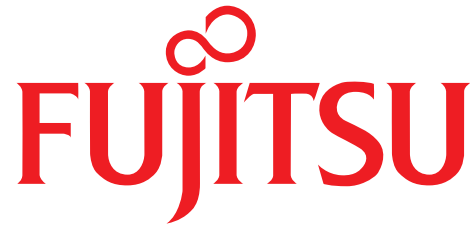


海岸防災林サポーターの皆さんも参加

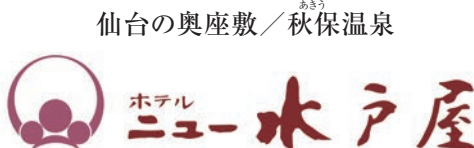
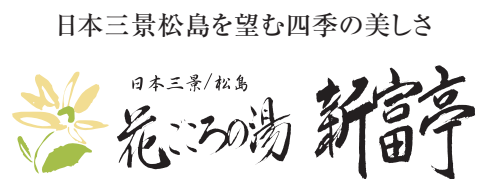
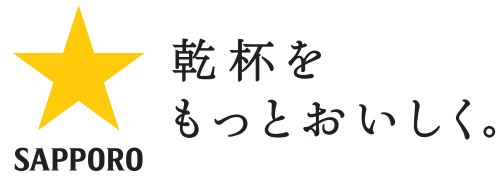


刈り取った草の搬出。子どもたちも大活躍

企画協賛



一般協賛



本キャンペーンは、ご覧の各社・団体の協賛により実施しています。

主催/河北新報社 協力/仙台市

順不同